



みんなでつくる

ふれあいの大屋根

“滝沢村交流拠点複合施設”

住民が集う場として、大屋根の下、麓に出来た集落のように顔を出す様々な交流施設がにぎわいをつくれます。

ROOF NEWS Vol.8

※屋根の英単語 ROOF をとり、タイトルとしました。

平成 25.10.31 滝沢村 (交流拠点整備室)

ROOF1 バリアフリーについての意見交換会が実施されました。

交流拠点複合施設について、9月27日に滝沢村公民館で、障がい者の方やその団体の方をお迎えし、施設のバリアフリーやユニバーサルデザインについての意見交換会が行われました。

進行は、バリアフリー・ユニバーサルデザインに精通し、複合施設建設推進委員会の委員長でもある岩手県立大学社会福祉学部学科長の狩野徹教授にお願いし、障害の内容により午前と午後の2回に分け、様々なご意見を伺ったものです。村や県からも福祉担当者に参加いただきました。

ROOF2 バリアフリーについての意見交換会の概要

まず、施設平面図などにより現設計でのバリアフリーやユニバーサルデザインの考え方が示されました。サインや点字ブロックなどの誘導物、床や階段のバリアフリーや安全、トイレや授乳室の機能や広さ、エレベータの仕様などで、県や国の基準を満たした上で、例えば身障者トイレのほかにも広いトイレの設置、部屋の配置を単純化したり、色分けや番号でのゾーン分けで分かりやすくする、チャグチャグ馬コキャラクターを使った楽しい誘導、などが示されました。



バリアフリー意見交換会の様子

ROOF3 バリアフリーについての意見交換会の結果

参加者からは活発な意見が出され、誘導関係では、サインをもう少し大きく、デザインの線を太く、壁から突き出し式も欲しい、誘導物のありすぎも混乱する、子供の目線にもっと意識を、触地図(触ってわかる案内図)をもっと多く、色によるゾーン分けは良い、などの意見がありました。

また、床材は雨天時に滑りにくいものを、総合案内カウンターは高いものと低いものがあるが低いほうだけではどうか、車椅子駐車場の屋根付きの部分を増やして欲しい、クッキングスタジオのように火に触れる機会は発達障害の子供にとっても良い機会になる、エアータオルについては音を嫌う子がいるといった半面、耳栓を持ち歩き自衛処置講じている場合もある、などの意見が出されました。ハード面も大事だが今後管理するスタッフやボランティアなどの対応といった運営面も大切といった意見もありました。

狩野教授からは、分かりやすさはもちろんだが、サインなどで慣れると楽しいものもある、更に工夫し誰にでも使いやすい施設を目指していきたいとお話がありました。

ROOF4 まとめ

頂いたご意見を参考に、実施設計に反映していきます。引き続き ROOF NEWS でお知らせします。